

# 国文学研究資料館報

第61号

平成15年9月

編集・発行者 国文学研究資料館  
 東京都品川区豊町一丁目一六〇  
 郵便番号 一四二一八五八五  
 電話 〇三―三七八五―七一一三  
 FAX 〇三―三七八五―七〇五一  
 URL: <http://www.nijiac.jp/>  
 印刷 株式会社三協社

思ひ成て此地と能く寺の園院と定し  
 山号寺号もつとまけりき 詩事名理  
 聖徳太子の第一座とて 京北の妙光寺  
 移住 後彼所と補陀山靈巖寺と  
 系押の縁覺求法乃

(2) (4)

紀伊國在田郡廣庄補陀山  
 靈巖禪寺縁起  
 夫淳俗として敬まはる信  
 乃風天下にふはやく  
 小もくはく邪僻の道世上

(1) (3)

此縁起者耕雲の御筆也  
 大臣右近大将藤原長親公御出  
 家之後廟所居軒林耕雲法諱  
 明親則京北妙光寺本願  
 内相村四代御孫也

其基址聖園に梵風宣揚して普に  
 示現乃妙用三界よりみくはやく  
 諸音の真慈聲類よもくはやく  
 改元歳次甲戌十一月廿四書

靈巖寺縁起 (1) 巻頭 (2) 本文の一部 (3) 本文末 (4) 巻末識語 (9頁参照)

目次	
総合研究大学院大学への参加について 安永尚志 …… 2	整理閲覧部事業報告 鈴木 淳 …… 15
三宅家蔵仲光家文書の典籍類について 小川剛生 …… 4	彙報 …… 16
海外司書日本古典籍講習会 開講に当たって 鈴木 淳 …… 6	集会等予告 …… 18
大学共同利用機関法人に向けて 松野陽一 …… 8	秋季特別展示・公開講演会 古典連続講演「万葉集を読む」 第27回国際日本文学研究集会
新収資料紹介51：靈巖寺縁起 落合博志 …… 9	評議員等名簿 …… 19
文献資料部事業報告 谷川恵一 …… 10	人事異動 …… 22
文庫紹介39 富加町郷土資料館 田淵旬美子 …… 12	利用者へのお知らせ …… 23
研究情報部事業報告 松村雄二 …… 13	秋・冬季学会開催一覧 …… 24

# 総合研究大学院大学への 参加について

日本文学研究専攻長 安永尚志

二〇〇三年（平成一五年）四月一日、総合研究大学院大学に文化科学研究科の六番目の専攻として、日本文学研究専攻（博士後期課程）が設置された。日本文学研究専攻は、文部科学省大学共同利用機関国文学研究資料館を基盤機関として設置された専攻である。

総合研究大学院大学は、大学院だけを置く学部を持たない国立大学として、一九八八年（昭和六三年）一〇月に開学した我が国初の大学院大学である。文化科学研究科は、総合研究大学院大学の一つの研究科として、五つの人文科学系大学共同利用機関を基盤機関（国立民族学博物館、国際日本文化研究センター、国立歴史民俗博物館、メディア教育開発センター、国文学研究資料館）としている。文化科学研究科は、一九八九年（平成元年）四月国立民族学博物館を基盤として、二専攻（地域文

化学専攻、比較文化学専攻）を置いて創設された。続いて、一九九二年（平成四年）度には、国際日本文化研究センターを基盤として

国際日本研究専攻が、一九九九年（平成一一年）度には国立歴史民俗博物館を基盤として日本歴史研究専攻が、二〇〇一年（平成一三年）度にはメディア教育開発センターを基盤としてメディア社会学専攻が、そして本年度国文学研究資料館を基盤として日本文学研究専攻が、設置された。

日本文学研究専攻における教育・研究の基本的理念は、「日本文学研究専攻は書物を中心とした文化資源に対する科学的で高度な知識を有し、文学を文化科学の一環として総合的・多角的に研究し得る若手研究者の育成を基本理念として、豊饒な日本文化の継承と発展に寄与する新しい学問領域を切り拓こうとするものである」と

している。言い換えれば、本専攻では国文学研究資料館が収集している原典資料を文化情報資源として位置づけ、書物および作品としての特質や隣接諸学との関連などを総合的に研究し、これら原典資料が持つ情報を活用して、先進的な日本文学研究を行う人材を育成することを目的としている。

日本文学研究専攻では、教育研究指導分野として、文化資源論に立脚した日本文学研究の専門的な指導を目的として、文化資源が語る多様な情報の理解を目的とした共通科目、日本文化における文学のあり方を総体として把握するための三つの教育研究指導分野（文学資源研究、文学形成研究、文学環境研究）を立てている。

「共通科目」では、写本や版本または文書など、現存する文化資源が語るさまざまな情報を扱うための方法論について教育研究を行う。文学情報論、書物情報論、記録情報論の三科目を置く。「文学資源研究」では、日本文学の文化資源である書物メディアについて、書写・出版・集積・交流などの文化的観点から考察し、表れた特質について教育研究を行う。書物メ

ディア論、書物交流論、書写文化論、前期出版文化論、後期出版文化論、資源集積論の六科目を置く。「文学形成研究」では、文化情報として作品がいかに書かれ読まれたか、具体的な本文・表現・作品に即して考察し、文学作品形成および享受の動態について教育研究を行う。本文形成論、表現形成論、作品形成論（中世以前）、作品形成論（近世以後）、作品享受論の五科目を置く。「文学環境研究」では、文学を形成してきた制度・環境・コミュニティはどのようなものかという観点から、文学環境の実態を考察し、その特質について教育研究を行う。文学思想論（中世以前）、文学思想論（近世以降）、文学芸術論、文学集団論、文学社会論の五科目を置く。以上一九科目の教育研究指導分野を立てている。

日本文学研究は、欧米において長い歴史を持ち多くの成果を生んできている。近年は、その他の諸外国でも日本文学研究に対する関心が一層高まり、教育研究は活発化してきている。本専攻は国際的な視野を持った日本文学研究のための高等教育研究を意図している。

本専攻設置後、直ちに最初の入学者選抜試験を実施し、一〇名の応募者の中から三名の意欲的でフレッシュな第一期生が入学した。大内英範君は「源氏物語鎌倉期本文の研究」、中島次郎君は「淋敷座之慰」を中心とする近世前期歌謡の研究」、仁野平郁君は「新傾向俳句運動とは何だったのか―碧梧桐と碧門俳人の芸術活動」を、それぞれの研究課題として、日々研鑽を積んでいる。

本専攻の教育研究棟も、本館裏側の池に面した旧書庫をリフレッシュし、独立した研究棟として新たに整備された。院生室、講義室、ミーティング室等が整備され、日々の教育研究活動の拠点となつてきている。

日本文学研究専攻は始まったばかりである。すべてが初めてのことであり、ほとんど白紙の状態の日々戸惑っている。指導教官、院生を始め、関係各位のご努力で少しずつであるが、確実に進展している。なお、一層のご尽力をお願い申し上げる。

本専攻を支える事務組織についてであるが、事務官が新規増員されなければならないが、法人化等

機構改革の流れにより実現していない。館長、管理部長のご配慮により、国文学研究資料館管理部庶務課共同利用係があたることとなった。本専攻を立ち上げ、軌道に乗せるための膨大な事務が山積し、日々発生している。庶務課をあげての、また共同利用係各位の献身的なご努力で、漸く出だしの三ヶ

月を乗り切った。ここに深謝申し上げます。

本専攻は、国文学研究資料館の評議員会、運営協議員会、各種委員会の方、教職員、関係者各位のご指導とご尽力の賜物であり、原典資料を基礎とする先進的かつ中心的な高等教育研究機関として発展するよう、さらなるご協力を

お願いしたい。

さいごに、日本文学研究の伝統を踏まえ、新たな開拓を目指す意欲あふれる第二期生の方々の入学を心から期待している。

(研究情報部教授)



2003年4月1日 看板上掲式での専攻長(左)と館長

# 三宅家蔵仲光家文書の 典籍類について

小川 剛 生

森鷗外の「阿部一族」で、自殺同然に討死する細川藩士竹内教馬の、島原の乱の戦功を述べるくだりには「渡邊新彌、仲光内膳と数馬との三人が天晴であつた」と立花飛騨守宗茂がわざわざ連名の感状を遣つたことが見えている。その藍本となつた「阿部茶事談」には「立花飛州より給はりし感状は数馬・渡邊新彌・仲光小内膳三人連名也、仲光氏へ相伝ふと云」とあり、典拠であること瞭然としている。

さてこの「仲光小内膳」こと、半助正昭（一六一九〜一六七九）は武功でもまた文事において、家中抜群の人物であつたらしい。もとよりその名は、鷗外が典拠にあくまで忠実であろうとしたが故に、たまたま出されたと言えるが、正昭が「阿部一族」「興津彌五右衛門の遺書」の登場人物とも深く関わりを有し、その家が蔵書に富み、

それが現代まで伝えられているとなれば、鷗外好きならずとも少なからぬ興味を覚えることであろう。事実、仲光家には、興津彌五右衛門が主君細川忠興の命を受けて長崎で買い付けてきたという名香初音の一片（のち勅命により白菊と改称する）が大切に保存されているのである。

仲光家に伝来した文書・典籍類のことは、熊本においてさえ必ずしも知られていなかったようである。昭和三十年頃、仲光家からその縁戚に当たる三宅家の蔵となり、大切に保存されてきた。

昨年（平成十四年）、熊本市役所の市史編纂室が、「新熊本市史」編纂のため、この仲光家文書を借り出されて調査し、仮目録を作成された。そこには多数の文学関係書籍が含まれていたことから、かねて市史編纂室の業務を助力され、当館の文献資料調査員でもある徳岡

涼氏より御連絡をいただいた。

こうして、三宅家当主久美子氏、および市史編纂室のご許可をいただき、徳岡氏・鈴木元氏・川平敏文氏および小川の四名で、急遽六月十九日から二十一日かけての三日間、典籍の調査を行った。「仲光家文書目録」によれば、番号は三六八に達している。このうち、一〇九九は家譜・先祖付・藩主ら要人の書状・武道伝授書の類であり、一〇〇以降が典籍、二三八からが書画掛軸の類となる。およそ一四〇点の典籍のうちには、歌書類の善本が多いことが目を惹く。もとより「国書総目録」等には未登録の伝本である。とくに重要と思われる典籍については、後日解題を執筆して紹介する予定であるが、いまだ広く知られていないコレクションであるから、ここで蔵書の概容を簡単に記して、大方の参考に供したいと思う。

家譜によれば仲光家は清和源氏に属し、戦国時代肥後に勢力のあつた隈部氏の支族で、菊池仲光の地に拠りここを名字とし、代々半助を通称とした。

初代正昭は始め正綱といい、寛永八年十三歳の時、細川忠利に小

倉で御目見、翌九年御小姓として召し出された。十五年島原の乱での軍功は上の通りであるが晩年に「有馬城攻覚書」（写一冊、一一二）を遺している。仲光家文書のなかには例の「阿部茶事談」（写一冊、一八四）も存するのは、正昭の働きをいかに子孫が敬慕していたかを思えばよく理解される。この本は嘉永三年堀田家蔵本を写したもので、本文は略本である永青文庫蔵本に近いが、同書の新出伝本として注目されよう。

正昭は忠利の言により、烏丸光広、冷泉為景、烏丸資慶らについて歌道を学んだ。家集「和歌草藁集」（写一冊、一一二六）、「中納言為景御添削」（写一軸、一一二二）、「詠十五首和歌」（写一軸、一一三三）、光広添削）などが詠草として伝えられてきた。「正昭翁覚書」（写一軸、一一二〇）は歌道との関わりを自ら記したものである。

仲光家の歌書類はこの正昭が主君から拝領した典籍、あるいは自ら書写したものを母胎として形成されていった。その中には、巻五秋下の三五首の零本とはいいいながら、撰者飛鳥井雅世の自筆にかか「新統古今和歌集」（室町中期

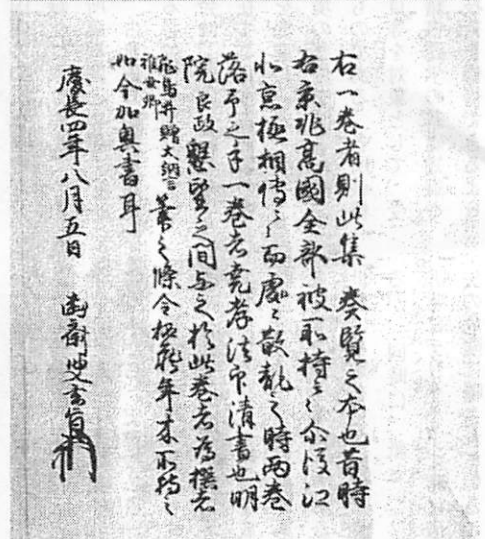
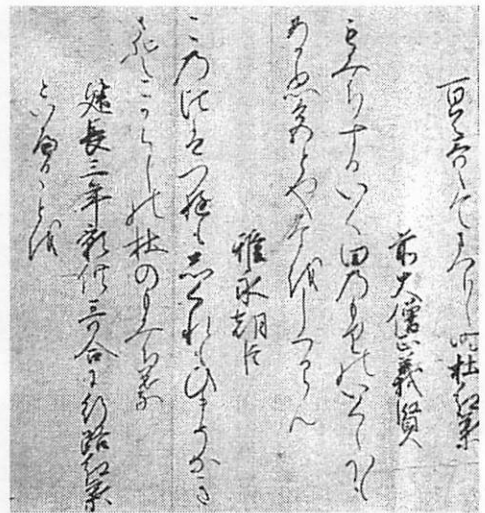
写一軸、一〇六)がある(図版は冒頭と奥書)。この本は室町幕府管領細川高国の手を経て幽斎に伝わったもので、後に忠利より正昭が拝領したという。徳岡氏の論攷「三宅家蔵仲光家旧蔵『新統古今和歌集』について」(市史研究くまもと14号 平15・3)が、この本は同集の再度奏覽時の正本の一部ではないか、と推定する通り、数少ない勅撰和歌集の奏覽本の現物として大きな価値を有する。このほか歌書類で主なものを列挙すれば、肖柏編『九代抄』(室町末期写一冊、一〇二)、『源氏詞・正風林抄・師説自見集』(一〇三、七丁のみ存、永正十二年正月書写

奥書あり)、飛鳥井雅俊「和歌之条々」(江戸初期写一軸、一〇四)、『歌合』(江戸初期写一冊、一〇七、正治一年仙洞十人歌合以下六種の歌合を収める)、『拾遺愚草』(江戸前期写二冊、一一七・一二七)、『正徹物語』(江戸前期写一冊、二四、上巻のみ存)、『拾遺愚草抄出開書』(江戸初期写一冊、一八)、『師兼千首』(室町末期写一冊、一三二)などがある。

正昭の後、仲光家は正辰・正有・正古・正右・正喜・正意・正富・永勝・正時と相承けた。正富に男子なく、分家の狩野氏より永勝が嗣ぎ、明治維新を迎えている。歴代中、正有・永勝・正時の識語

を持つ典籍が目立ち、家の蔵書の管理と拡充に心を砕いたことが知られる。

正有は綱利・宣紀・宗孝の三世呢懇の重臣といわれて大いに家名を挙げたが、儒学者林三陽(春泰・長泰)の実子である。三陽は林羅山の妻の弟荒川長家(宗竹)の四男で、従兄に当たる鶯峰に師事して『本朝通鑑』の編纂にも従い、林姓を名乗った。三陽は正昭女を妻とし、その間に生まれた正有が正辰の養子として仲光家を嗣ぐのである。三陽を介した林家との関係にも興味を惹くものがある。事実、三陽筆にかかる鶯峰の『論語集註私考』(写一冊、一三三)



〔市史研究くまもと〕14号より転載)

などが見える。こういう要路に繋がる人々が周囲にいたことで、仲光家の蔵書がより充実したことも容易に想像されよう。

月並みではあるが、正昭以来三百年の星霜を経て、貴重な典籍類を守り伝えてきた、仲光家歴代の努力に思いを致さずにはいられない。郷土資料としての価値ももとより、武家の学問の実態を伝える蔵書として大変貴重である。何より正昭が中世歌学の大成者である幽斎を出した細川家に仕え子孫もその記憶を忘れなかつたことで、仲光家文書の歌書は、正統的な歌学を反映した、質の高いものとなっているのである。今後、文学・歴史学の研究のために大いに活用されることが望まれるが、幸いなことに、マイクロフィルムによる収集が許可され、既に撮影も終わっており、当館における閲覧・複写が可能となる見通しである。

最後に改めて三宅久美子氏に深甚の謝意を表す。また周旋の労を厭わず、さまざまなご配慮を忝くした市史編纂室の一木和世氏・近浦茂美氏にも篤く御礼申し上げます。(文献資料部助教)

## 海外司書日本古典籍講習会

## 開講に当たって

Practical Workshop for Overseas Librarians on  
Early Japanese Books

鈴木 淳

当館は、平成一五年度の二月（二〇〇四年二月）に、海外の日本語資料を専門的に扱う司書を対象に、日本古典籍講習会を開催することとなった。本講習会は、北米東亜図書館協会（CEAL）日本文献委員会との交流の積み重ねと協力の上に実現するものである。また、当館と日本資料専門家欧州協会（EAJRS）等との交流の実績に鑑み、対象を欧米を中心とする、海外で日本語資料の整理に当たる司書に拡大して実施することとした。

なお、平成一六年度以降は、原則として国内の図書館司書等を対象に、毎年夏、講習会を実施する予定である。来年四、五月頃に募集することになるが、多数のご応募を期待したい。

趣旨、及び今回の実施要項、カ

リキユラムは以下の通り。

（整理閲覧部長）

## 【趣旨】

当館は、一九世紀以前の日本の書物、すなわち古典籍を調査、収集し、その情報を提供することを基幹事業とする研究機関であり、同時に日本国内外に所在する古典籍の総合目録化に取り組んできた。今後は、各所蔵機関との協力を一層密にして、古典籍の総合目録化事業を進める必要性を痛感している。本講習会は、その一環として、国内外に所在する日本古典籍の整理、目録化を促進し、広く活用されるよう環境の整備を図るために発足させるものである。各所蔵機関の図書館員等を対象として、受講者が古典籍書誌学の基礎知識や整理方法の技術を修得できるよう

継続的に行い、もって古典籍に関する高度な専門家を養成しようとするところに目的がある。

そもそも日本の書物は、奈良時代初期に「古事記」が成立して以来、実に約一三〇〇年の長い歴史を持つており、これまでに作られた書物の数は測り知れない。それは紙に筆墨で記され、あるいは印刷された上で書物の形に装訂され、多種多様な情報として人々に読み伝えられ、大切に保存されて今日に至っている。現在、日本国内の図書館、文庫、個人コレクション等には膨大な数の写本、版本等、一九世紀以前の書物資料すなわち日本古典籍が所蔵されており、一部は国外に移転して伝存する。これら書物資料は、たとえば美術的装飾を凝らした歌集や物語等の古写本から、史書や仏書等の教養書、あるいは草双紙と称する黄表紙や合巻等の娯楽書に至るまで、すべて日本文化の根幹を成す貴重な遺産と言ふべきものである。

すまでもあるまい。よって、できるだけ早急に調査し、整理、保存を図り、然るべく研究、利用に供することが望まれる。しかし、現状では、国内の古典籍のうち、総合目録である「国書総目録」「古典籍総合目録」等に登載され、所在が判明するのは約半分強に過ぎず、その残りの何割かは各所蔵機関の所蔵目録にのみ登載であり、さらにその余はあらゆる目録に未登載である。

日本にも類を見ないほど良質であるが、同時に、紙という性格上、非常にデリケートで常に破損、紛失の危険に曝されていることは申

国外では東アジアと欧米を中心に、絵本、和刻本をはじめとする大量の日本古典籍が図書館、博物館、その他に所蔵されている。その多くは「国書総目録」等の総合目録に未登載であり、過半は所蔵目録にも登載されていないのが現状である。国内、国外とも、これら未登載分については、各所蔵機関の職員の努力によって少しずつ目録化が進められている。しかるに、一部の機関を除いて、図書館員の方々の古典籍の整理に対する知識や技術は必ずしも十分とはいえず、このまま事態を放置すれば、貴重な文化遺産としての古典籍の多くが活用されることもなく、埋没もしくは損傷することになりか

ねない。

本講習会を実施することは、今日、日本の古典籍が置かれている、こうした危機的状况を克服するために、時宜を得たものと考え、ここに広くご理解とご協力をお願いする次第である。

【実施要項】

期 間：平成一六(二〇〇四)年 二月二日[月]～二月六日[金] (計五日間)

場 所：国文学研究資料館 一階 大会議室

講 師：当館教官一名・司書三名・他大学講師一名  
対 象：海外の日本資料所蔵機関の図書館員等

定 員：約二〇名(応募者多数の場合には選考)

受講料：無料  
渡航滞在費用：参加者各自負担  
テキスト：各自に無料配布  
使用言語：日本語

【講義内容】

◇ 第一日(二月二日(月))  
九：〇〇～一〇

開講式・オリエンテーション

松野 陽一(当館館長)

鈴木 淳(当館教授)

九：一〇～一〇：四〇

【講義】古典籍の基礎知識

一、和書概説

岡 雅彦(当館教授)

一〇：五〇～一一：一〇

【見学】

二、閲覧室・書庫・史料館

中村スミ子(当館司書)

一三：一〇～一五：一〇

【講義】古典籍の基礎知識

三、江戸出版史

大高 洋司(当館教授)

一五：二〇～一六：五〇

【見学】

四、展示「和書のさまざま」

大高 洋司

◇ 第二日(二月三日(火))

九：〇〇～一〇：三〇

【実習】書誌記述

五、写本(一)

田淵句美子(当館教授)

一〇：四〇～一一：一〇

【実習】書誌記述

六、写本(二)

落合 博志(当館助教授)

一三：一〇～一四：一〇

【講義】古典籍の基礎知識

七、くずし字の読み方(一)

加藤 昌嘉

一四：二〇～一六：二〇

【講義】古典籍の基礎知識

八、篆刻と蔵書印

堀川 貴司(当館助教授)

一六：四〇～一八：四〇

レセプション(当館大会議室)

◇ 第三日(二月四日(水))

九：〇〇～一〇：三〇

【実習】書誌記述

九、版本(一)

鈴木 淳

一〇：四〇～一一：一〇

【実習】書誌記述

一〇、版本(二)

鈴木 淳

一三：一〇～一四：一〇

【講義】古典籍の基礎知識

一一、くずし字の読み方(二)

加藤 昌嘉

一四：二〇～一五：五〇

【講義】古典籍の基礎知識

一二、古筆切・短冊

久保木秀夫(当館助手)

◇ 第四日(二月五日(木))

九：〇〇～一〇：三〇

【実習】古典籍の保存

一三、補修の方法(一)

城崎 陽子(国学院大学 兼任講師)

一〇：四〇～一一：一〇

【実習】古典籍の保存

一四、補修の方法(二)

城崎 陽子

一三：一〇～一四：四〇

【講義】古典籍の基礎知識

一五、歴史資料

小川 剛生(当館助教授)

一四：五〇～一六：二〇

【講義】古典籍の基礎知識

一六、明治期出版史

谷川 恵一(当館教授)

◇ 第五日(二月六日(金))

九：〇〇～一〇：三〇

【講義】古典籍の基礎知識

一七、絵画資料

山下 則子(当館助教授)

一〇：四〇～一一：一〇

【実習】古典籍の目録化

一八、古典籍総合目録データベース

一ス

一三：一〇～一五：一〇

【実習】古典籍の目録化

一九、和書目録データベース

鈴木 一正(当館司書)

一五：二〇～一六：二〇

懇談会

一六：二〇

閉講式

# 大学共同利用機関法人に向けて

松野陽一

今年度から、総合研究大学院大学（総研大）に参加し、「日本文学研究専攻」の博士課程を設置しました。総研大は、一四の大学共同利用機関を基盤とする国立の大学院大学で、民博（二専攻）、日文研、歴博、メディア研の五専攻で構成する文化科学研究科に加わったのです。伝統ある大学・大学院の日本文学、国文学研究の態勢は健在なので、特色・独自性を打出すのに苦心をしました。事実、

難産でしたが、担当チームの周到でねばり強い準備の甲斐あって、発足することができました。基盤の国文研の特性を活かした、書籍資料に広く目配りを効かせて新見を打出せる研究者を育てて行きたいと念じています。入学者は三人。研究者としての成長を見守って下さい。

国立大学法人法が成立して、大学共同利用機関も来年度から法人となることになり、四機構法人に

編成されて、当館も、日文研、民博、歴博、地球環境研との五機関で、人間文化研究機構を構成することになりました。それぞれ、独自の領域を開拓し、成果も上げてきているので、基本的な研究・研究事業の枠組みは変えませんが、統合の効果で開拓できる新分野や新しいテーマを、今、協力して検討しているところです。

国文研も、この大きな変革に対応できるように、事業の全面的に見直し、組織の編成変えを進めています。基盤事業である、文献資料の調査・収集・整理・閲覧の流れは強化しますし、研究情報の発信も、より充実させますが、大学共同利用機関に要請されている、先端的研究の開発の一端を担うべく、全教官を研究部、事務官を事務部に分離する案を立てました。教官は研究部の文学資源研究系、文学形成研究系、超領域研究系、アーカイブズ研究系（いずれも仮

称）のいずれかに所属して研究に従事すると共に、かならず前記の研究事業の方も担当して貰います。研究にだけ力を入れて、事業の方の手は抜くのではないかという懸念が起きないように努める所存です。当館独自の研究分野の開拓のみならず、他機関との連繋や、館外研究者との共同研究をし易くするための配慮なのです。

史料館を従来までのような附置機関ではなく、文学の三研究系と並ぶ、アーカイブズ研究系と位置づけたのも、今回の改革の特色です。吸収合併ではなく、独自性を失う改変でもありません。立場の弱い附置機関の位置づけから脱し、記録資料学の学術的主張を強く推進するばかりでなく、文学研究系と提携して魅力的な研究領域を構築して貰うつもりなのです。

日本文学研究のコミュニティは、平成一三年度版の『国文学年鑑』に拠れば、年間一二〇〇〇本の論文を書く、約九〇〇〇人の研究者が基盤となっている分野です（日本語で論文を書く外国籍の方が三五〇人います）。従来コミュニティと館との関係は、「調査員」制度によって、書籍資料の調査・

収集に広く参加して貰い、資料の蓄積に館員と共同して当り、広く研究に利用してきていただきました。研究事業としてかなりな成果をあげてきたと思います。しかし、研究に関しては、予算の枠組みからの制限もあり、共同研究なども極めて小規模なものや萌芽的研究にとどまらざるを得ませんでした。その点、改革後は、研究を機軸としながら事業をバック・アップしてゆく、大学共同利用機関らしい態勢がとれるのではないかと、期待しているところです。

立川移転問題も、ずつと組織・事業改革と関連させて考えてきたのですが、こちらは三年程先きに延びそうです。冒頭に触れた総研大博士課程の諸問題を併せて、再設計してゆくことになりましょう。時間もなく忙しいことですが、目前に要請されている中期目標・中期計画の六年を充実させるためにも、せめて従来経てきた三十年を越える時間に耐えられるだけの制度設計はしたいと願っているところです。

（館長）



## 新収資料紹介⑤

## 『靈巖寺縁起』

本資料は、昨平成一四年三月に当館所蔵となったものである。既に昨年一月の当館創立三〇周年特別展示に出品され、その図録に簡略な解説も掲載される（館報前号にも再掲）が、資料としての貴重性を考慮し、ここに改めて紹介する。

簡単に書誌を記す。写本、卷子一軸。近年のものと思われる綴子表紙を付す。外題なし。本紙は、三四・三×五二・〇cmほどの鳥の子二七枚継ぎ。毎紙一行の金界を引く。一行字数は一〜二四字でかなり幅があるのは、本文の初め数紙と最終紙が比較的大ぶりの字で、途中が小ぶりの字で書かれているためである。

巻頭に、「紀伊国在田郡広庄補陀山／靈巖寺縁起」と内題が大きく二行に書かれる。また奥書として独立した形ではなく、縁起本文の末尾に「応永改元歲次甲戌十一月廿七日書」とある。その後に登場人物に関する二行の注記が同筆で記され、次いで「此縁起者耕雲之御筆也」云々の識語が別筆で

追記される。

紙質・墨色等の点で応永頃の写本と考えて問題はなく、特に小ぶりの字に表れた特徴的な書体からも、別筆識語に言う通り耕雲、即ち南北朝～室町初期の文人花山院長親の自筆本と見て誤りない。

耕雲については諸家による伝記・著作の研究があり、『靈巖寺縁起』についても岩橋小弥太氏ほかと言及しておられるものの、転写本に基づいていた故の様々な限界があった。今回原本と見做される写本が確認されたことで、新たな研究の進展が期待される。

なお本縁起に扱われる靈巖寺は現存しないが、能仁寺は和歌山県有田郡広川町名島に所在する。孤峰覚明を開山とする臨済宗法燈派ゆかりの名刹である（今は真言宗系）。本縁起も元はどちらかの寺に伝えられていたものであろう。今回は紙幅も不十分なため、成立や内容等の詳しい検討はいずれ全文を紹介する機会を俟つこととし、以下仮に縁起の本体部分を一〇段に分けて梗概を紹介する。

靈巖寺の開創の因縁を聞けば、末世にも靈験のあることが知られ、信心が深まることだ。（取意）

① 紀伊国在田郡広庄の雁蕩山能仁寺は、三光国師（孤峰覚明）開創の靈場。その東の山を二里ほど登った所に、からたちいはは（枳岩）と呼ばれる靈境がある。

② 正平十年（一三五五）、吉野山に住む役行者の弟子縁覚、三光国師の弟子明超の示導により能仁寺へ行き、枳岩に住す。③ 文中三年（一三七四）、湯浅庄の僧円勝、枳岩に庵を結び二七日勤行す。

④ 嘉慶元年（一三八七）、天下早魃につき、麓の村に住む大覚禪師（關溪道隆）の遠孫性寿、枳岩に登り雨を祈る。後、小庵を建て居住。⑤ 明德元年（一三九〇）、性寿と同宿の道音、枳岩の東の息の巖に棲む四大神の大蛇を夢に見る。⑥ 同年、枳岩を開かんとする性寿の祈念に答え、その地の主千手観音、道音に憑いて託宣す。⑦ 同年、性寿、早により雨を祈る。湯浅里の土民九郎太郎、性寿の請雨を妨げる鬼を千手観音が追い払う夢を見る。

⑧ 同年、明德二年、土民ら発願し、仏師に託えて本尊千手観音の

像を造立。その間、九郎太郎、四大神が仏師に造像を指導する夢を見る。⑨ 明德二年、仏師の受けた観音の夢告により、本尊に楊柳の手を作り添える。そのため像を仏師に送る際、観音、道音に憑いて種々託宣す。翌年、小堂を建立し本尊を移す。

⑩ 聖徒（明）隣和尚、能仁寺住持の折、度々枳岩に參詣。性寿、この地を能仁寺の奥院として山号寺号を付けることを請い、聖徒、補陀山靈巖寺と名付く。

〔結び〕縁覚と四大神は、二十八部衆の応化である。靈巖寺は観音の靈地として、能仁寺とともに永く栄えるであろう。（取意）

以上から窺えるように、極めて地方色の濃い内容であるが、一方寺院の成立の由来やそれに伴う靈夢・託宣が子細に記されている点では好個の資料であり、同時に耕雲の事蹟資料としても注目される。耕雲は家系的に法燈派と関わりが深く、⑩に見える聖徒明隣（孤峰覚明の高弟）に学んだことが推定されており、その縁から本縁起の執筆を依頼されたのである。

（文献資料部・落合博志）

# 文献資料部事業報告

谷川 恵 一

\*平成十四年度国文学文献資料調査・収集の概況

文献資料部では、国内外の各所蔵機関および調査員の方々の御協力のもとに資料調査および収集を行ない、左記の成果を挙げる事ができた。

## 一 調査

国内：一六六箇所一、七七五点  
海外：一箇所一、一六五点  
合計：一七七箇所二、九四〇点  
(このうち、Cカード二、九三五点、Eカード三〇九点。デジタル調査は三、〇〇九点。)

## 二 収集(海外は実施せず)

国内：六六箇所 四、二二六点  
(合計四五八、二二一コマ。このうちデジタル収集は五箇所二七二点で、二七、一一五コマ)  
これにより、累計の調査点数は約三〇万八千点、収集点数は約一七万四千点となった。

平成十四年度の調査・収集先は左記のとおりである(括弧内のア

ラビア数字は調査点数を示す。このうち、C・Eと付記したのはそれぞれ書目カード・標目カード「近代」での調査を、何も付記しないものは細目カードによる調査であることを示す。漢数字は収集点数を示す。各点数の前にデと付記したものは、デジタルによる調査・収集であることを示す。また、予は予備調査である。当館の事業を理解していただき調査・収集に応じてくださった各所蔵機関と、調整にあたられた担当者各位に感謝いたします。

## 【国内】

伊達市開拓記念館(31)・弘前市立図書館(100、デ58、一四七)・八戸市立図書館(デ204、デ五三)・盛岡市中央公民館(一一三)・宮城県図書館(72)・東北大学附属図書館(狩野文庫)(48)・東北大学附属図書館(予)・仙台市博物館(48)・山形大学附属図書館(C94)・山形短期大学附属図書

館(五五)・酒田市立光丘文庫(23、デ71・八三)・米沢市立米沢図書館(44)・福島県歴史資料館(82)・会津若松市立会津図書館(78)・初瀬川文庫(二五)・茨城大学附属図書館(123)・筑波大学附属図書館(135)・筑波大学附属図書館(宮本文庫)(デ141)・黒羽町立芭蕉の館(予)・輪王寺天海蔵(67)・千葉県立中央図書館(予)・国立歴史民俗博物館(予)・青山学院大学図書館(18)・早稲田大学図書館(教林文庫等)(200)・早稲田大学図書館(デ115)・東京芸術大学附属図書館(予)・東京芸術大学芸術資料館(1)・国立国会図書館(予)・宮内庁書陵部(140・一四二)・法政大学能楽研究所(鴻山文庫)(四五)・立教大学人文科学系図書館(41)・五島美術館(予)・三井文庫(31)・東洋文庫(62・五二)・尊経閣文庫(39・三八)・東京都立中央図書館(東京誌料)(31、一一四)・東京都立中央図書館(予)・東京大学文学部国文学研究室(11)・東京大学教養学部国文漢文学教室(デ29)・神奈川県立金沢文庫(C69)・大倉精神文化研究所(15)・横浜開港資料館(12)・小屋原市立図書館(予)・新潟大学附属図書館(佐野文庫)(八三)・新潟県立図書館(デ68)・柏崎市立図書館(21)・小千谷市立図書館(予)・長岡市立図書館(予)・黒川村公民館(一四七)・石川県立図書館(川口文庫)(44)・石川県立図書館(予)・金沢市立玉川図書館(予)・金沢大学附属図書館(83)・選賢館(2)・小浜市立図書館(デ54)・山梨大学附属図書館(近代文学文庫)(デ112)・上田市立図書館(山崎文庫)(デ52)・上田市立図書館(花月文庫)(デ91、デ六四)・長野県立歴史館(20)・諏訪市博物館(26)・諏訪市図書館(六〇)・高遠町文化センター(8)・浜松市立賀茂真淵記念館(55・一九八)・三島市郷土館(勝俣文庫)(26)・名古屋市鶴舞中央図書館(24)・名古屋市蓬左文庫(四三)・大須文庫(131、三〇五)・愛知県立大学附属図書館(四二)・中京大学図書館(14)・名古屋博物館(140)・一〇四)・道風記念館(予)・吉良町立図書館(予)・新城ふるさと情報館(牧野文庫)(一〇七)・富加町郷土資料館(21)・松井屋酒造資料館(55)・常楽寺(予

- ・尾鷲市立中央公民館郷土室(デ66)・彦根城博物館(5)・夢望庵文庫(44・80)・京都府立総合資料館(28・八九)・京都大学総合人間学部(デ133)・京都大学文学部(頼原文庫)(44)・蘆庵文庫(44)・陽明文庫(39・C341・三六八)・百々御所文庫(六二)・京都国立博物館(66)・立命館大学総合情報センター(デ31)・瑞光寺(369)・佛教大学附属図書館(予)・万福寺(予)・瑞巖寺(予)・京都市某家(127)・奈良女子大学附属図書館(五九)・天理大学附属天理図書館(40)・郡山城史跡柳沢文庫保存会(52)・大阪府立中之島図書館(予)・大阪市立中央図書館(2)・大阪大学附属図書館(土橋文庫)(デ49)・大阪市立大学学術情報総合センター(予)・大阪天満宮御文庫(52)・大阪女子大学附属図書館(29)・道明寺天満宮(66)・神戸大学附属図書館(住田文庫)(デ138・デ六三)・神戸女子大学古典芸能研究センター(予)・濱口博章(41)・和歌山大学附属図書館(紀州藩文庫)(デ46)・田辺市立図書館(17)・南方熊楠邸保存顕彰会(七七)・青山歴史村(77)・九六)・龍野文庫(予)・谷川好一(予)・鳥取県立図書館(39)・一一七)・鳥根県立図書館(36)・鳥根大学附属図書館(21)・太鼓谷稻成神社(42)・岡山大学附属図書館(池田文庫)(22)・ノートルダム清心女子大学附属図書館(C105・九六)・光藤益子(二三)・岡山県総合文化センター(予)・正宗文庫(67・C273)・広島市立中央図書館(小田文庫)(21)・広島大学附属図書館(C29)・福山市立福山城博物館附属鏡橋文書館(8)・三原市立図書館(562・C4・五二)・専徳寺(予)・山口大学附属図書館(棲息堂文庫)(79)・毛利博物館(12・二六)・岩国市立中央図書館(67)・忌宮神社(予)・光市文化センター(24)・萩市立図書館(デ28)・岩崎家(40)・香川大学附属図書館(神原文庫)(18)・織田共済会図書館(37)・総本山善通寺(2・C108・二二五)・愛媛県立図書館(6・C72)・松山大学図書館(21)・大洲市立図書館(97・九二)・宇和島伊達文化保存会(1)・徳島県立図書館(森文庫)(50)・徳島県立文学館(予)・高知県立図書館(山内文庫)(90・九三)・高知市民図書館(近森文庫)(デ272・デ六一)・佐川町立青山文庫(予)・九州大学附属図書館(予)・柳川古文書館(19)・祐徳稲荷神社(中川文庫等)(88・デ67・五七・デ三二)・長崎県立長崎図書館(デ83)・長崎大学附属図書館(経済学部分館)(デ36)・長崎大学附属図書館(武藤文庫)(デ61)・諏訪文庫(390)・諫早市立諫早図書館(C197)・肥前松平文庫(76・一四三)・山鹿積徳堂文庫(489)・松浦史料博物館(55)・長崎県立対馬歴史民俗資料館(35)・熊本大学附属図書館(五高旧蔵書)(デE309)・熊本市立図書館(武藤文庫)(43)・三宅久美子氏蔵仲光家文書(17・C144・一五三)・人吉市図書館(C21)・白杵市立白杵図書館(37・二七)・杵築市立図書館(59・一一二)・竹田市立図書館(71)・別府市立図書館(C215)・肥城歴史資料館(52)・西明寺(予)

国立中央図書館台湾分館(109)・韓国国立中央図書館(208)・パリ東洋語図書館(デ417)・キオツン一ネ東洋美術館(59)・ヴェネチア東洋美術館(60・C23)・極東大学図書館(ロシア)(18)・上海図書館(24)・天一閣博物館(中国)(39)・北京図書館(3)・北京大学図書館(98)・メトロポリタン美術館(C60)・ニューヨーク市立図書館スペンサーコレクション(47)

\*調査カードのデータベース化  
 昨年度に引き続き、約七六、〇〇〇枚のカードをデジタル画像化し、累計で約一八二、〇〇〇枚のカードのデジタル画像化を終えた。一四年度調査分も合わせ、残りは来年度中に作業を終える予定である。デジタル画像化を終えたカードのうち、本年度は約七四、〇〇〇点について、書名・所蔵者名などの主要項目をデータベース化した。累計で、約九八、〇〇〇点の調査書目のデータベース化を終えた。

なお、データベース化した調査書目の一部を、本年一月より、当館ホームページにて(文献調査カード)という名称で公開している。

\*平成十五年度調査・収集計画  
 今年度も、昨年度来の継続箇所を中心に、国内で一三二箇所の調査を行ない、八、五三〇点の文献

を調査する計画を立て、実行に移している。収集は同じく五四箇所、三四〇点を予定している。

なお、今年度より、これまで第四文献資料室（近代）が進めてきたデジタル調査・収集の方式を江戸期以前の文献の調査・収集にも漸次導入していくこととし、所蔵機関のご理解と調査員の協力が得られたケースから順次切り替えている。調査に際しては、当館よりノートパソコンとデジタルカメラを調査先に送り、調査員はノートパソコン上の調査カードに必要事項を記入し、あわせて書誌的に重要と判断される箇所をデジタルカメラで撮影している。調査カードは、従来の紙の調査カード（Sカード）をベースにして、市販のデータベースソフトで作成したものを使用している。収集は高精細なカラー画像を得られるデジタルカメラによって行なう予定であるが、調査を含め、デジタルへの移行を完了するまでにはなお数年を要すると予想され、当面は、これまでの紙とマイクロフィルムによる方式とデジタル方式とを併用していくこととなる。デジタル方式の採用によって、調査によって得られ

た情報を独立した書誌情報として参照しうること、来館しなくとも収集した資料を自在に閲覧できること、などの効果が期待される。

#### \*第五文献資料室

平成十五年度は、客員教授として、国学院大学文学部の松尾葦江教授が着任した。併任助教授は、前期が東京大学の斎藤希史助教授、後期が岡山大学の山本秀樹助教授に委嘱、それぞれの専門分野から多様な文献の研究に従事していただいている。

#### \*国際研究室

平成十五年度は、五月一日から年度末まで、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学のジョシユア・モストウ准教授が着任、伊勢物語の解釈史と享受史をテーマとして研究されている。

#### \*その他

第四文献資料室の斎藤希史助教授が転出し、後任に神戸女子大学から青田寿美助教授が採用された。リサーチアシスタントには小野祐子・古田かつら・小林実の三氏が採用された。

（文献資料部長）

## 文庫紹介 ③

### 富加町郷土資料館

美濃国加路田（現・岐阜県加茂郡富加町）の平井家は、屋号を文之字屋といい、江戸時代を通じて酒造業を含む商業活動によって繁栄した豪商である。この平井家に所蔵されていた古文書類八千点は、平成七年五月に開館した富加町郷土資料館に寄贈されたが、そのうちの約千点が文芸資料である。文之字屋八代目平井冬音と九代目冬秀に当たる元禄・天明年間のものが中心であり、自筆の和歌添削資料が多く存する。冬音ら当主や僧近隣の人々が、京都の香川宣阿、香川景新、水田長隣、有賀長伯、江戸の高田嘉重などに詠草を送り、和歌の添削指導を受けた跡が如実に知られ、地方の一般階層における文化水準の高さと都の文化流入の具体相を示すものとして貴重である。これまでのところほかに、俳諧、狂歌、漢詩、茶道関係資料などが蔵されることが判明している。

現在は未整理状態で目録は公開されていないが、現在調査員による精力的な調査が進行中である。

富加町郷土資料館は岐阜県加茂郡富加町夕田二二番地。JR美濃太田駅より長良川鉄道、富加駅下車、バスで双葉中学校前下車、徒歩十分。開館は第三日曜を除く土曜・日曜開館、午前九時から午後四時まで。問い合わせは富加町B&G海洋センター、〇五七四一五四―二八八六、又は富加町教育委員会、〇五七四一五四―二一一一。なお富加町郷土資料館ホームページでいくつかの資料を見ることが出来る。

（文献資料部 田渕句美子）

# 研究情報部事業報告

松村雄 二

## 情報資料室

第二十六回国際日本文学研究集  
会を、十一月十四日、十五日両日  
にわたって開催した。参加者は一  
〇〇名（うち海外より三〇名）。

本年度は「文化の中の文学、文学  
の中の文化―文学研究の可能性  
―」のテーマを設け、研究発表は  
十名全員がこのテーマに関するも  
のであった。公開講演は「旅の文  
化・旅の文学」の表題で、川村学  
園女子大学の今関敏子教授、「和  
歌に依る法華経の解釈」の表題で、  
フランス国立高等研究院のジャ  
ン・ノエル・ロベール教授が行っ  
た。なお、これらの内容を収める  
会議録を三月に刊行した。

他に、年二回（九月、三月）の  
館報の発行およびオンライン版の  
作成と、ホームページによる公開  
学会等国文学関係の催事の情報収  
集とホームページによる発信を行  
なった。

情報分析室  
【国文学年鑑（平成十三年）】

の刊行時点までの報告である。  
【国文学年鑑（平成十三年）】の編  
集を完了、平成十五年六月末に刊  
行した。主要項目の収録件数は以  
下の通りである。

- ①雑誌・紀要・論文集・新聞所載  
論文件数 一一、二九四
  - ②学会一覽件数 四四
  - ③学会研究発表一覽件数 八六三
  - ④新指定文化財件数 一三
  - ⑤平成十三年度文部科学省科学研  
究費等交付件数 七四二
  - ⑥受賞一覽件数 七九
  - ⑦訃報件数 四四
  - ⑧単行本書名一覽件数 二、六八一
  - ⑨収載雑誌紀要一覽件数 一、二〇九
  - ⑩発行所一覽件数 九五八
  - ⑪翻刻複製作品一覽件数 九一七
  - ⑫執筆著索引件数 九、二〇九
- 頁数は前年度（平成十二年版）  
より十四頁増の九二五頁。販売価  
格は、税込みで二二、八〇〇円。

【国文学論文目録データベース】

は、平成十三年分論文情報と十四  
年分の一部データ等を二七、九四  
五件入力した。これで、昭和十六  
年からの累積件数は三六一、七一  
一件となった。アクセス数は一日  
平均で二八七件。昨年度より一二  
件の増加である。

また、検索データの定義方式を、  
従来のSGMLからXMLに改めた。  
これは、館内の種々のデータベー  
スを横断的に利用するための布石  
であるが、利用者にとつての検索  
方式は変わらない。この措置によ  
つて、データ更新のため閉鎖期間  
を要するという問題は改善された。  
なお、本データベースの作成経費  
は平成十五年度には科研費から再  
び館内予算で措置されることにな  
った。

当論文目録データベースは、当  
館のデータベースの中では最も利  
用度が高いといえる。その便利さ  
については前号に書いたが、論文  
群の全体像が掌握しにくいという  
点や、タイトルが平面的に一律に  
示される点など、問題がないわけ  
ではない。これに対して冊子体の  
国文学年鑑は、視覚に訴えかける  
点で、これを補ってくれる。たと  
えば書架に収まった三十冊近い年

鑑を一目見ただけで、これだけの  
冊子につめられた論文の数々があ  
るのだというイメージがわく。  
年々厚くなる冊子を見て、斯学の  
隆盛・消長を思うこともできる。  
中を開いてみると、副題は小文字  
で記されるなど、論文のタイトル  
が視覚に受け入れやすいように組  
まれている。行頭のカギ括弧は半  
角にするといった細かな配慮も、  
見やすさに貢献しているはずだ。

開架式の書架の間を歩いて書物の  
顔を見ながら本を探す。それに近  
い感覚がデータベースよりも得ら  
れるのが、冊子体の利点だろう。  
法人化にともなう予算の変動で予  
断をゆるさないが、【国文学年鑑】  
と【国文学論文目録データベース】  
は、まだ当分は併存していかなけ  
ればならないと、当室では考えて  
いる。

データベース室  
当室の主要事業である原本テキ  
ストデータベースは、「栄花物語」  
と「大鏡」以下四鏡を収める歴史  
物語CD-ROM、および「古事記」  
【出雲国風土記抄】を収めるCD-  
ROMの二編を、十五年三月に同  
時刊行した。十四年度には、「五  
畿内名所図会撰津編」の監修作業

を行った。挿絵の細かな絵柄に詳細なキャプションの付加も行なったが、今後のデータベースとしての仕上げまでにはかなりの時間を要しよう。なお、後続の原本テキストデータベースメニューには、「謡曲『明月記』がある。なお、『扶桑拾葉集』は、翻刻本文レベルではデータベースとして仕上がった。

既刊のうち、「正保版本二十一代集データベース」は、当館のホームページから検索できるインターネット版を公開した。利用者数はかなりの数にのぼる。

これら原本関係とは別に科研費で開発している「古典人名データベース」は着実に進んでおり、そのうちの肖像画データベースの部分は、ホームページのデータベース室サイトから見ることができる。ただし、国文学研究情報部データベース室と連通の必要がある。このデータベースは引用の申し込みが増えている。

シンポジウムコンピュータ国文学は、十二月六日に「出版とアカデミズム」というテーマで第八回を開催した。出版界が抱える今日的な課題を考え、内容は充実していたが、企画が遅れ、ご案内が

りぎりになったことをお詫び申し上げます。

#### 情報処理室

情報システムの運用・運転に関する、以下の通常業務を継続した。

- (1) 基本サーバ (Enterprise 10000) を中心としたサーバ系、約一五〇台に及ぶパソコン・プリンタ等のクライアント系、およびギガビットトイーサネットによる高速LAN系の三つのカテゴリに基づき、第六期情報システムの二十四時間連続運用、情報資源の安全性・信頼性を保持する監視システムの運用を行った。

(2) 館の業務が複数サーバによる分散環境に移行したことに伴い、システム運用管理体制の見直しと、新たな運用環境の構築を行った。

(3) システムへのハッカー、ウイルス攻撃の頻発に対抗し、ファイヤーウォール機能を向上させるなど、セキュリティ対策の強化を実施した。

また、通常業務を除く平成十四年度の事業を以下のように実施した。

(4) 人文科学系各機関が有するデータベースの共有を目指して、標準検索手順であるZ39.50とDublin Coreメタデータに基づくシステムの開発に着手した。国文学研究

資料館の目録データ・画像データ・史料所在データ・OPACデータについては共有化作業が終了し、システムの試行運転を開始した。

また同手法によるデータベースの機関間連携を目指して、歴博・民博・日文研・東大史料編纂所・大阪市立大学などと資源共有化に関する懇談会を開催した。

(5) WEBとの親和性を考慮した新しい検索手法として、SOAPを利用した検索システムを設計・構築した。試行運転とシステムの評価を行っている。

(6) 旧岩波古典文学大系本文のデータベース試験公開を継続運用すると共に、テキストデータのXML化と、一部画像データのXML化及びPDF化を実現した。XMLデータについてはホームページから公開している。

開発を中心に行なった。さらに、今後、CD-ROMで出版される本文データベースのインターネットへの移植を迅速に行なうため、クライアントアプリケーションについて、プログラムコードができるだけ個別のデータベースに依存しないように設計した。現在、移行作業は完了しており、上記データベースは、XMLエンジンを介してインターネット上で順調に稼働している。

その他、館のシンポジウム、講演等のリアルサーバによるインターネット中継を実施した。

研究開発室(客員部門)

非常勤客員として、早稲田大学文学部から竹本幹夫教授(中世・能研究)を、併任客員として、神戸大学文学部から樋口大祐助教授(中世・軍記説話研究)を迎え、それぞれの研究とそれに関連するデータベース研究開発に関する助言・協力を得た。竹本教授には、特にデータベース室が進めている「謡曲データベース」の本文選定から監修に至る過程で、指導的かつ積極的なご尽力をいただいた。

(研究情報部長)

情報メディア室

岩波CD-ROM版『二十一代集』「絵入り源氏物語」「吾妻鏡」各データベースのXML化とインターネット環境への移行作業を行なった。移行にあたっては、特に処理の高速化とプラットフォーム(Windows/Mac)に依存しないクライアントアプリケーションの

# 整理閲覧部事業報告

鈴木 淳

整理閲覧部では、資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等の業務を行っている。平成十四年度の当部の業務は次のとおりであった。

### 情報サービス室

#### ①資料の受入

資料受入数についてみると、マイクロ資料は、ロールフィルム八六一リール、紙焼写真本三〇八冊、図書は、一、五七三冊、逐次刊行物は、三、五五一冊であった。その結果、平成十四年度末の全所蔵数は、別表のとおりとなった。

#### ②マイクロ資料の整理

マイクロ資料目録データ約四、五〇〇件を作成し、約七、五〇〇件のデータの点検を行った。

#### ③図書資料の整理

和古書は目録データ約一、二〇〇件を作成し、約五六〇件のデータ点検を行った。また、二三〇点の和古書の装備を行った。

活字本・影印本は、一、九九二冊を整理し、溯及入力は四二二冊を処理した。明治期資料は一、三四五冊の整理を行った。

逐次刊行物は、一、九三二タイトルの受入、整理を行った。

#### ④閲覧業務

年間開室日数は、二二八日、来館利用者数は、六、五七九人（一日当たり二八・九人）、登録者数は、六四九人（一日当たり七・二人）であった。閉架資料の閲覧点数は、二三、七四二点（一日当たり一〇四・一点）であった。また、文献複写は、二六、五八九件（一日当たり一一六・六件）で電子複写（リトグラフプリンターを含む）二五九、〇一五枚、紙焼写真二六、五二二枚、ポジフィルム九、六一四コマを作製した。

#### ⑤相互利用

大学図書館等からの複写・相互貸借の受付は、複写七、二五五件、貸借一一二件一八六冊であった。他機関への依頼は、複写三八九件、

貸借は一件一冊であった。

#### ⑥資料の保存

保存用ネガフィルムの外部保管委託は、平成十二年度収集分八四〇リールを追加委託し、総計三二、七一一リールとなった。

なお、例年どおり、四月末から五月初めにかけて資料のくん蒸、年度末には蔵書点検を実施した。

#### ⑦古典籍総合目録作成事業

古典籍の総合所在目録データベースを構築し公開することをめざし作業を継続している。

今年度は、所蔵者にデータ公開について依頼し、一四四機関より許可をいただき、書誌データ約一七万件の公開に向けて準備を進めた。また、データの新規登録再開の準備・試行、著作及び著者の典拠ファイルの改訂を行った。

#### 参考室

#### ①参考業務

参考質問の受付、回答は四四二件であった。

#### ②公開講演会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会を開催した。  
○第五十九回「本と人と研究と」高乗勲文庫から」（五月二十

四日、当館）

「立志恪勤の国文学者―序に代えて―」松野陽一（当館館長）

「高乗勲氏蒐集の古典籍―」落合然草（関係資料その他）

博志（当館文献資料部助教）

「永和本「太平記」をめぐる」長谷川端氏（中京大学文学部教授）

○第六十回「詩歌の未来形―創作と研究―」（創立三十周年記念）（平成十四年十一月十六日、当

所蔵資料統計

（平成15年3月末現在）

資料種別	点数	冊(リール)数
マイクロ資料	マイクロフィルム※	37,332リール
	マイクロフィッシュ	57,321枚
	紙焼写真本	65,563冊
図書(古書及び新刊書)	47,747点	122,245冊
逐次刊行物	5,424誌	151,149冊
寄託資料	958点	4,307冊

※他に複写用ネガ33,265リール、閲覧用ポジ34,555リールがる。

館)

- ・「古典和歌研究の一視点―貴人と「女房」―」田淵句美子(当館文献資料部教授)
- ・「短歌創作における古典の活用」水原紫苑氏(歌人)
- ・「恋、風景、日本の詩歌の季題―和歌から俳諧・俳句へ―」ハルオ・シラネ氏(コロンビア大学教授)

- 創立三十周年記念特別講演会(十一月二十九日、国立オリピック記念青少年総合センター)
- ・「文学をよむ欲び」中西進氏(帝塚山学院院长)
- ③古典連続講演
  - 「百人一首―王朝和歌から中世和歌へ―」井上宗雄氏(立教大学名誉教授)による五回の講演(九月二十六日、十月十日、十月二十四日、十一月七日、十一月二十一日、当館)

④展示

- 特別展示
  - ・「高乗敷文庫貴重書展」(平成十四年五月二十日～三十一日)
  - ・「古典が手元にとどくまで―館蔵貴重書のかずかず―」(創立三十周年記念)(平成十四年十一月)

委員会日誌

一月十一日～二十八日

○通常展示

- ・第七十八回「和書のさまざま」(平成十四年三月十八日～四月二十六日)
- ・第七十九回「和書のさまざま」(平成十五年三月十八日～五月十五日)

⑤講演集・展示目録の刊行

### 彙

### 報

公開講演会の講演録である「古典講演シリーズ」は第九巻「田安徳川家蔵書と高乗敷文庫―二つの典籍コレクション―」(臨川書店)を刊行、また、特別展示の図録として「国文学研究資料館創立三十周年記念特別展示図録」を刊行した。(整理閲覧部長)

攻入学者選抜委員会

講演会・展示会等小委員会

総研大日本文学研究専攻教育研究委員会

総研大日本文学研究専攻委員会

5月15日

5月21日

5月22日

5月30日

6月5日

6月6日

6月10日

6月11日

6月12日

6月17日

6月10日

6月11日

6月12日

6月17日

委員会

・運営協議会員の開催について

平成15年3月20日(木)の平成

14年度第4回運営協議会では、

管理運営の概況、平成14年度事

業・研究報告、平成15年度予算内

示及び科学研究費補助金、平成15

年度事業計画、平成15年度共同研

究計画等について協議が行われた。

3月4日 講演会・展示会等小委員会

3月5日 ホームページ小委員会

3月18日 総研大日本文学研究専攻教育研究準備委員会

3月25日 大学院教育協力委員会

3月26日 図書資料委員会

3月27日 文献資料デジタル化小委員会

3月28日 自己点検・評価委員会

3月31日 攻準備委員会

4月7日 ホームページ小委員会

4月8日 総研大日本文学研究専攻入学者選抜委員会

4月9日 総研大日本文学研究専攻

攻入学者選抜委員会

総研大日本文学研究専攻委員会

4月15日 公開等データベース小委員会

4月16日 総研大日本文学研究専攻教育研究委員会

4月22日 総研大日本文学研究専攻委員会

4月24日 図書資料委員会

4月24日 文献資料デジタル化小委員会

5月1日 自己点検・評価委員会

5月12日 総研大日本文学研究専攻

5月13日 総研大日本文学研究専攻

5月11日 自己点検・評価委員会

5月12日 総研大日本文学研究専攻

5月13日 総研大日本文学研究専攻

5月13日 総研大日本文学研究専攻

5月13日 総研大日本文学研究専攻

5月13日 総研大日本文学研究専攻



・評議員会の開催について  
 平成15年5月2日(金)の平成15年度第1回評議員会では、管理運営の概況、平成14年度事業・研究報告、平成15年度予算内示及び科学研究費補助金、平成15年度事業計画、平成15年度共同研究計画等について協議が行われた。

・外国出張・鈴木 淳

渡航先 大韓民国

目的 韓国における日本関係文献の調査とその分類に関する実態調査

期間 平成15年2月5日～平成15年2月9日

伊藤 鉄也

渡航先 大韓民国

目的 外国語による日本文学研究文献のデータベース化に関する予備調査及び研究打合せ

期間 平成15年2月5日～平成15年2月9日

入口 敦志

渡航先 台湾

目的 台湾大学図書館に所蔵される日本古典籍の調査

査

期間 平成15年2月17日～平成15年2月20日

岡 雅彦

渡航先 中華人民共和国

目的 天一閣博物館及び上海図書館所蔵の日本文献の調査

期間 平成15年2月23日～平成15年2月27日

堀川 貴司・和田 恭幸

渡航先 中華人民共和国

目的 天一閣博物館及び上海図書館所蔵の日本文献の調査

期間 平成15年2月23日～平成15年3月1日

茅田 健一・和田 洋一  
 大久保武史

渡航先 中華人民共和国

目的 天一閣博物館及び上海図書館所蔵の日本文献の調査の実施に関する事務打合せ

期間 平成15年2月23日～平成15年3月1日

原 正一郎

渡航先 アメリカ合衆国

目的 人文科学研究支援コラボレーション機能に関する実証的研究のため

査

期間 平成15年2月23日～平成15年3月7日

松野 陽一・佐藤 晃一

渡航先 台湾

目的 国立台湾大学図書館所蔵日本古典籍の調査及び旧総督府本の調査・収集に関する打合せ

期間 平成15年3月2日～平成15年3月4日

山下 則子

渡航先 イタリア共和国

目的 欧州における日本古典籍の調査及び打合せ

期間 平成15年3月9日～平成15年3月27日

中村 康夫

渡航先 フランス共和国

目的 国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信に関する調査研究

期間 平成15年3月10日～平成15年3月15日

加藤 聖文

渡航先 台湾

目的 旧植民地、占領地におけるアーカイブズ政策と記録伝存過程の研究に関わる史料調査と収

査

期間 平成15年3月16日～平成15年3月23日

松野 陽一

渡航先 大韓民国

目的 国立中央図書館所蔵旧朝鮮総督府本(和本)の収集に関する打ち合わせと伝本調査)

期間 平成15年3月16日～平成15年3月18日

原 正一郎

渡航先 連合王国

目的 British Association for Japanese Studies Annual Conference 2003への出席と発表

期間 平成15年4月12日～平成15年4月18日

加藤 聖文

渡航先 大韓民国

目的 韓国内日本関係史料の調査と情報交換

期間 平成15年5月25日～平成15年5月27日

野本 忠司

渡航先 カナダ

目的 HCN/NAACL '03に参加

期間 平成15年5月26日～平成15年6月2日

査

期 間	目 的	渡 航 先	和 田 恭 幸	期 間	目 的	渡 航 先	大 高 洋 司・小 川 剛 生	期 間	目 的	渡 航 先	松 野 陽 一	期 間	目 的	渡 航 先	安 永 尚 志
平成15年6月27日	点の調査・収集及び交渉のため	旧朝鮮総督府本二〇〇	大韓民国	平成15年6月22日	点の調査・収集及び交渉のため	旧朝鮮総督府本二〇〇	大韓民国	平成15年6月22日	点の調査・収集及び交渉のため	旧朝鮮総督府本二〇〇	大韓民国	平成15年6月1日	語！日本語対訳DB	行全文DBの研究、伊	日本古典文学作品の平
平成15年6月22日				平成15年6月26日				平成15年6月10日							イタリヤ共和国

特別展示「八戸市立図書館所蔵『読本』展」のお知らせ

平成15年10月8日(水)～10月24日(金)

◎午前10時～午後4時30分【22日(水)は5時30分まで】

◎土日祝日は休館 ◎入場無料

近世後期、全国の読者を魅了した長編娯楽小説「読本」——八戸南部家旧蔵の善本・美本約70点を、東京で初公開します。(後援 八戸市立図書館)

公開講演会「江戸の本格小説——『読本』を読む、見る」

平成15年10月22日(水)午後1時30分～

◎当館1F大会議室にて、1時より受付開始 ◎先着120名 ◎聴講無料

「八戸南部家蔵書の性格」 松野陽一(当館館長)

「絵本と読本」 大高洋司(当館教授)

「ロマンスの構造—読本文学様式論のために—」 浜田啓介(京大名誉教授)

古典連続講演「万葉集を読む」

講 師：佐竹昭広(当館名誉教授)

日 程：第1回9月26日(金)、第2回10月10日(金)、第3回10月24日(金)、

第4回11月7日(金)、第5回11月21日(金) ※各回 午後2時より(90分)

場 所：当館1F大会議室

聴 講 料：無料

定 員：120名(応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます)

申込方法：往復ハガキに、住所・氏名・所属をご記入の上、〒142-8585 品川区豊町1-16-10 国文学研究資料館整理閲覧部参考室「万葉集」係まで。メ切は9月11日(木)です。

第27回国際日本文学研究集会

2003年11月13日(木)・14日(金) テーマ：剽窃・模倣・オリジナリティー—日本文学の想像力を問う—

第1日・研究発表(13:00～)

淨瑠璃における「富士浅間物」の展開—「秀伶人吾妻雛形」「粟島諸嫁入雛形」を中心に—

白楽天「白羽扇」等の受容による「源氏物語」の「扇」の意味のずれ

歌作りということ—和歌史における俊頼の位置—

媒介者としての日本文学—国木田独歩「運命論者」を手がかりとして—

「南方憧憬」と帝国の接点—台湾原住民神話に関わる作品を中心に—

寺山修司—ミッキーマウス—背ひげ

創られた被爆者詩人アラキ・ヤササダ—時に真実は必要か—

レセプション(17:40～)

第2日・研究発表(10:30～)

佐藤春夫「春風馬堤園譜」の模倣とオリジナリティー

「和製アフロディーテ」の誕生—谷崎潤一郎の『少年』におけるシンボリズムを中心に—

異文化としての墓地—永井荷風による花の都の再構築—

公開講演(13:30～)

女の声を盗む—太宰治の女性独白体小説について—

伊勢物語絵—創造的な模倣と政治的な盗用—

参加方法：氏名・住所・現職・研究分野・レセプション参加希望の有無をお書きの上、郵送またはfaxでお送り下さい。申込書の形式は自由ですが、当館ホームページ(<http://www.nijl.ac.jp/>)掲載のものをお使いになると便利です。参加費は無料です。

レセプション参加費：1,000円程度(当日お支払い下さい)

申込・問合せ先：〒142-8585 品川区豊町1-16-10 国文学研究資料館研究情報部情報資料室内

国際日本文学研究集会事務局 03-3785-7131 内403、408 fax03-3785-4455

韓 京 子

黄 建 香

寺田 澄江

丁 貴 連

阮 文 雅

ステイヴン・クラーク

ホセア・ヒラタ

朱 衛 紅

オウス・バイカラ

デンニツァ・ガブラコヴァ

坪井 秀人

ジョシュア・モストウ

評議員等名簿

評議員

任期 平成14年7月1日～平成16年6月30日

(任期 平成15年5月1日～平成16年6月30日)

朝尾直 弘 京都大学名誉教授

大口勇次郎 聖徳大学人文学部教授

甲斐睦朗 独立行政法人国立国語研究所長

樺山紘一 独立行政法人国立美術館理事(国立西洋美術館長)

北原保雄 筑波大学長

久保木哲夫 都留文科大名誉教授

久保田淳 白百合女子大文学部教授

興膳宏 独立行政法人国立博物館理事(京都国立博物館長)

後藤祥子 日本女子大文学長

佐々木毅 東京大学長

末松安晴 国立情報学研究所長

堤精二 お茶の水女子大名誉教授

中野三敏 福岡大文学部教授

野崎弘 独立行政法人国立博物館理事(東京国立博物館長)

野山嘉正 放送大学教授

平岡敏夫 筑波大名誉教授

松園萬亀雄 国立民族学博物館長

宮地正人 国立歴史民俗博物館長

山折哲雄 国際日本文化研究センター所長

吉原健一郎 成城大大学院文学研究科長

運営協議員

任期 平成14年8月1日～平成16年7月31日

伊井春樹 大阪大大学院文学研究科教授

岡崎久司 早稲田大文学文化研究所客員教授

高埜利彦 学習院大文学部教授

十川信介 学習院大文学部教授

外村南都子 白百合女子大文学部教授

名和修 財団法人陽明文庫長

原道生 明治大文学部教授

藤井讓治 京大大学院文学研究科教授

森正人 熊本大文学部教授

吉田伸之 東京大大学院人文社会系研究科教授

共同研究委員会委員

任期 平成15年4月1日～平成17年3月31日

江本裕 大妻女子大文学部教授

妹尾好信 広島大大学院文学研究科助教授

竹本幹夫 早稲田大文学部教授

牧野和夫 実践女子大文学部教授

三木紀人 城西国際大文学部教授

三田村雅子 フェリス女学院大文学部教授

国文学文獻資料収集計画委員会委員

任期 平成14年4月1日～平成16年3月31日

朝倉尚 広島大総合科学部教授

川上新一郎 慶應義塾大附属研究所道文庫教授

高山節也 二松学舎大東洋学研究所教授

美濃部重克 南山大文学部教授

山田俊治 横浜市立大国際文化学部教授

任期 平成15年4月1日～平成17年3月31日

後小路薫 別府大文学部教授

大取一馬 龍谷大文学部教授

徳田和夫 学習院女子大国際文化交流学部教授

中川博夫 鶴見大文学部教授

長島弘明 東京大大学院人文社会系研究科教授

国際日本文学研究会委員会委員

任期 平成14年4月1日～平成16年3月31日

今関敏子 川村学園女子大人間文化学部教授

木越治 金沢大文学部教授

神野藤昭夫 跡見学園女子大文学部教授

小峯和明 立教大文学部教授

坪井秀人 名古屋大大学院文学研究科教授

ロバート・キャンベル 東京大大学院総合文化研究科助教授

原本テキストデータベース委員会委員

任期 平成14年4月1日～平成16年3月31日

加納重文 京大女子大文学部教授

久保田啓一 広島大大学院文学研究科教授

森正人 熊本大文学部教授

吉村誠 山口大教育学部教授

石川一 県立広島女子大国際文化学部教授

三角洋一 東京大大学院総合文化研究科教授

廣木一人 青山学院大文学部教授

情報システム委員会委員

任期 平成14年4月1日～平成16年3月31日

安達文夫 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授

石塚英弘 図書館情報大図書館情報学部教授

内田保廣 共立女子大文学部教授

神立孝一 創価大経済学部教授

近藤泰弘 青山学院大文学部教授

杉田繁治 龍谷大理工学部教授

長崎健 中央大文学部教授

中山雅哉 東京大情報基盤センター助教授

根岸正光 国立情報学研究所情報研究系教授

星野聰 京大名誉教授

和中幹雄 国立国会図書館総務部副部長

古典籍総合目録委員会委員

任期 平成15年4月1日～平成17年3月31日

(任期 平成15年5月23日～平成17年3月31日)

- 市古夏生 お茶の水女子大学教育学部教授
- 今西裕一郎 九州大学大学院人文科学研究科教授
- 折田洋晴 国立国会図書館主題情報部古典籍課長
- 木村八重子 金城学院大学文学部教授
- 笹川郁夫 東京大学附属図書館事務部長
- 柴田光彦 東京国立博物館客員研究員
- 原道生 明治大学文学部教授
- 宮澤彰 国立情報学研究所教授

任期 平成15年4月1日～平成16年3月31日

(北海道・東北地区)

- 佐倉由泰 東北大学大学院文学研究科助教授
- 佐藤晃 山形短期大学教授
- 杉浦清志 北海道教育大学教育学部函館校教授
- 名子喜久雄 山形大学教育学部教授

(関東地区)

- 青柳隆志 東京成徳大学助教授
- 伊倉史人 いわき明星大学人文学部非常勤講師
- 伊藤善隆 和洋女子大学非常勤講師
- 井上泰至 防衛大学校人間文化学教科助教授
- 大倉浩 筑波大学文芸・言語学系助教授
- 加藤禎行 大妻女子大学非常勤講師
- 佐伯孝弘 清泉女子大学文学部助教授
- 佐藤知乃 青山学院女子短期大学非常勤講師
- 島田康行 筑波大学文芸・言語学系助教授
- 杉浦晋 埼玉大学教養学部助教授
- 杉本和寛 東京芸術大学音楽学部助教授
- 津田真弓 日本女子大学非常勤講師
- 寺島恒世 東京医科歯科大学教養部教授

- 十重田裕一 早稲田大学第一・第二文学部教授
- 中丸宣明 山梨大学教育人間科学部助教授
- 西山美香 聖心女子大学文学部非常勤講師
- 原田香織 東洋大学文学部日本文学文化学教科助教授
- 樋口恵 私立開智中学校・高等学校教諭
- 姫野敦子 東京大学大学院人文社会系研究科助手
- 二又淳 明治大学非常勤講師
- 宗像和重 早稲田大学政治経済学部教授
- 渡辺麻里子 千葉大学文学部非常勤講師

(中部地区)

- 阿部泰郎 名古屋大学大学院文学研究科教授
- 石坂妙子 新潟大学教育人間科学部教授
- 有働裕 愛知教育大学教育学部助教授
- 塩村耕 名古屋大学大学院文学研究科助教授
- 杉田昌彦 静岡大学教育学部助教授
- 高橋明彦 金沢美術工芸大学美術工芸学部助教授
- 戸谷精三 長野工業高等専門学校校助教授
- 中川豊 中京大学非常勤講師
- 服部直子 中部大学非常勤講師
- 服部仁 同朋大学文学部教授
- 船城俊太郎 新潟大学人文学部教授
- 森澤多美子 元静岡大学教育学部非常勤講師
- 柳澤良一 金沢学院大学文学部教授
- 和田道子 中京大学教養部教授

(近畿地区)

- 青木稔 神戸松蔭女子学院大学文学部教授
- 安達敬子 京都府立大学文学部助教授
- 飯倉洋一 大阪大学大学院文学研究科助教授
- 飯田祐子 神戸女学院大学文学部助教授
- 出原隆俊 大阪大学大学院文学研究科教授

- 海野圭介 大阪大学大学院文学研究科助手
- 小林強 武庫川女子大学非常勤講師
- 神道宗紀 帝塚山学院大学文学部教授
- 須田千里 京都大学大学院人間環境学研究所助教授
- 田口路枝 神戸松蔭女子学院大学文学部非常勤講師
- 中前正志 京都女子大学短期大学部教授
- 野口隆 大阪学院大学経済学部助教授
- 原雅子 金蘭短期大学教授
- 濱口雅教 兵庫県立伊丹北高等学校教諭
- 藤田真一 関西大学文学部教授
- 峯村至津子 京都女子大学短期大学部助教授
- 盛田帝子 相愛大学人文学部非常勤講師
- 山本和明 相愛大学人文学部助教授
- 山本登朗 関西大学文学部教授
- 林原純生 神戸大学文学部教授

(中国・四国地区)

- 赤松万里 鳴門教育大学学校教育学部教授
- 蘆田耕一 鳥根大学文学部教授
- 稲田秀雄 山口県立大学国際文化学部教授
- 尾崎千佳 山口大学人文学部講師
- 久保田啓一 広島大学大学院文学研究科教授
- 倉本昭 梅光学院大学文学部助教授
- 佐々木亨 徳島文理大学文学部教授
- 杉本好伸 安田女子大学文学部教授
- 竹村信治 広島大学大学院教育学研究科教授
- 田野慎二 広島国際大学医療福祉学部講師
- 田村憲治 愛媛大学法文学部教授
- 辻野正人 徳島文理大学短期大学部講師
- 西本寮子 県立広島女子大学国際文化学部助教授
- 広嶋進 ノートルダム清心女子大学文学部助教授

- |                           |                             |                                |
|---------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 福田 景道 島根大学教育学部教授          | 近藤 みゆき 実践女子大学文学部教授          | 末柄 豊 東京大学史料編纂所助手               |
| 福田 安典 愛媛大学教育学部助教授         | 近藤 泰弘 青山学院大学文学部教授           | 池和田 有紀 宮内庁書陵部図書課第二図書調査室室員      |
| 藤澤 毅 尾道大学芸術文化学部助教授        | 谷本 玲大 茨城大学人文学部非常勤講師         | 小林 大輔 早稲田大学本庄高等学院教諭            |
| 古瀬 雅義 安田女子大学文学部助教授        | 中村 文 埼玉学園大学人間学部助教授          | 高橋 育子 お茶の水女子大学大学院博士後期課程        |
| 星野 佳之 ノートルダム清心女子大学文学部講師   | 二階堂 善弘 茨城大学人文学部助教授          | 課題名〔中世年中行事書の研究〕                |
| 山本 秀樹 岡山大学文学部助教授          | 別府 節子 出光美術館学芸員              | 鈴木 元 熊本県立大学文学部助教授              |
| 〔九州地区〕                    | 宮崎 康充 宮内庁書陵部図書調査官           | 伊藤 敬元 藤女子大学教授                  |
| 井上 洋子 福岡大学国際コミュニケーション学部教授 | 湯浅 吉美 埼玉学園大学人間学部助教授         | 佐藤 厚子 福山女学院大学文化情報学部助教授         |
| 今井 明 福岡女子大学文学部教授          | 横井 孝 実践女子大学文学部教授            | 吉森 佳奈子 信州大学教育学部助教授             |
| 大久保 順子 福岡女子大学文学部助教授       | 原本テキストデータベース監修員             | 石田 実洋 宮内庁書陵部編修課研究員             |
| 勝俣 隆 長崎大学教育学部教授           | 任期 平成15年4月1日～平成16年3月31日     | 佐々木 孝浩 慶應義塾大学附屬研究所新道文庫助教授      |
| 川平 敏文 熊本県立大学文学部助教授        | 加納 重文 京都女子大学文学部教授           | 山田 尚子 慶應義塾大学大学院生               |
| 黒木 香 活水女子大学文学部助教授         | 田野 慎二 広島国際大学医療福祉学部講師        | 課題名〔初期草双紙の網羅的解題のための研究〕         |
| 國生 雅子 福岡大学人文学部助教授         | 竹本 幹夫 早稲田大学文学部教授            | 黒石 陽子 東京学芸大学教育学部助教授            |
| 鈴木 元 熊本県立大学文学部助教授         | 天野 文雄 大阪大学文学部教授             | 加藤 康子 梅花女子大学文学部助教授             |
| 松本 常彦 北九州市立大学文学部助教授       | 石井 倫子 日本女子大学文学部助教授          | 有働 裕 愛知教育大学教育学部助教授             |
| 若木 太一 長崎大学環境科学部教授         | 稲田 秀雄 山口県立大学国際文化学部教授        | 山下 琢巳 東成短期大学「花とコミュニケーション」助教授   |
| 国文学研究情報研究専門員              | 大谷 節子 神戸女子大学文学部助教授          | 丹 和浩 東京学芸大学附屬高等学校大泉校舎教諭        |
| 任期 平成15年4月1日～平成16年3月31日   | 表 きよし 国士館大学21世紀アジア学部教授      | 細谷 敦仁 東京都立八王子東高等学校教諭           |
| 浅田 徹 お茶の水女子大学教育学部助教授      | 樹下 文隆 県立広島女子大学国際文化学部教授      | 湯浅 佳子 東京学芸大学教育学部助教授            |
| 飯田 和明 筑波大学附屬中学校教諭         | 小林 健二 大谷女子大学文学部教授           | 檜山 裕子 青山学院高等部非常勤講師             |
| 池田 三枝子 実践女子大学文学部助教授       | 西村 聡 金沢大学文学部教授              | 課題名〔院蔵に見る文学資料 おびや堂蔵「トウ」に関する研究〕 |
| 熊本 英人 駒澤大学仏教学部講師          | 松岡 心平 東京大学大学院総合文化研究科教授      | 渡辺 信和 同朋大学仏教文化研究所研究室長          |
| 鈴木 豊 文京学院大学外国語学部教授        | 三宅 晶子 横浜国立大学教育人間科学部教授       | 湯谷 祐三 愛知県立大学文学部非常勤講師           |
| 堤 玄太 帝京大学文学部講師            | 山中 玲子 法政大学能楽研究所教授           | 牧野 和夫 実践女子大学文学部教授              |
| 森野 崇二 松学舎大学文学部助教授         | 共同研究員                       | 藤巻 和宏 杉野服飾大学非常勤講師              |
| 山下 哲郎 明治大学政治経済学部非常勤講師     | 任期 平成15年4月1日～平成16年3月31日     | 川鶴 進一 早稲田大学本庄高等学院教諭            |
| 湯浅 佳子 東京学芸大学教育学部助教授       | 課題名〔十市逸忠自筆資料群の悉皆調査とその書誌的研究〕 | 高橋 秀城 大東文化大学大学院文学研究科博士課程       |
| 青柳 隆志 東京成徳大学人文学部助教授       | 武井 和人 埼玉大学教養学部教授            | 田戸 大智 早稲田大学大学院文学研究科博士課程        |
| 小林 徹行 和洋女子大学人文学部非常勤講師     | 三村 晃功 京都光華女子大学文学部教授         | 柳澤 正志 早稲田大学大学院文学研究科博士課程        |

## 人事異動（平成15年3月～平成15年8月）

## 【教育系職員】

発令年月日	氏名	異動内容（新官職）	旧（現）官職
15. 4. 1	松野 陽一	〔再任〕 館長 〔転出〕	館長
15. 3. 31	鈴江 英一	北海道教育大学教育学部札幌校教授 〔採用〕	史料館教授
15. 4. 1	高橋 實	史料館教授	〔作新学院大学経営学部教授〕
〃	青田 寿美	文献資料部助教授	〔神戸女子大学文学部講師〕
〃	松尾 葦江	文献資料部客員教授（16.3.31まで）	〔國學院大学文学部教授〕
〃	奥田 勲	研究情報部客員教授（16.3.31まで）	〔聖心女子大学文学部教授〕
〃	神立 孝一	史料館客員教授（16.3.31まで）	〔創価大学経済学部教授〕
〃	安野 一之	研究情報部非常勤研究員（16.3.31まで）	
〃	松本 智子	研究情報部非常勤研究員（16.3.31まで） 〔併任等〕	
15. 4. 1	齋藤 希史	文献資料部助教授（15.9.30まで）	〔東京大学大学院総合文化研究科助教授〕
〃	長尾 直茂	研究情報部助教授（16.3.31まで）	〔山形大学教育学部助教授〕
〃	宮崎 克則	史料館助教授（16.3.31まで） 〔外国人研究員〕	〔九州大学総合研究博物館助教授〕
15. 5. 1	モスト ジョシュア スコット	文献資料部客員助教授（16.3.31まで）	〔ブリティッシュ・コロンビア大学准教授〕

## 【事務系職員】

発令年月日	氏名	異動内容（新官職）	旧（現）官職
15. 4. 1	菅原 浩	〔転出〕 独立行政法人教員研修センター総務部会計課長	管理部会計課長
〃	長津 昭	岐阜工業高等専門学校学生課長	管理部庶務課課長補佐
〃	荒井 久典	東京大学学生部厚生課保健掛主任	管理部庶務課共同利用係長
〃	中井 雪子	東京大学工学部等学術協力課学術情報掛長	整理閲覧部情報サービス室情報管理係長
〃	神谷 真司	東京工業大学経理部契約室第1契約掛主任	管理部会計課経理係主任
〃	土屋 啓一	放送大学学園経理部主計課総務係 〔転入〕	管理部会計課用度係員
15. 4. 1	上原 正宜	管理部会計課長	岐阜大学経理部主計課長
〃	中村 洋一	管理部会計課課長補佐	東京工業大学工学部附属高等学校経理掛長
〃	清水 律子	整理閲覧部情報サービス室情報サービス係員 〔採用〕	東京大学社会科学研究所図書掛員
15. 4. 1	市場なつき	管理部庶務課庶務係員	
〃	井村 真琴	管理部庶務課共同利用係員	
15. 6. 1	森 勝義	管理部会計課経理係員 〔館内異動〕	
15. 4. 1	黒瀧 裕	管理部庶務課課長補佐	管理部会計課課長補佐
〃	菊地みつ子	管理部庶務課共同利用係長	管理部庶務課専門職員
〃	和田 玲子	整理閲覧部情報サービス室情報管理係長	整理閲覧部情報サービス室情報整備係長
〃	戸田加代子	整理閲覧部情報サービス室情報整備係長	整理閲覧部情報サービス室情報サービス係員
〃	野村 龍	管理部庶務課 史料館兼務	整理閲覧部情報サービス室受入係員
〃	大久保武史	管理部会計課経理係員	管理部会計課情報処理係員
〃	崎山 健司	管理部会計課用度係員	管理部庶務課庶務係員

利用者へのお知らせ

◆「マイクロ資料・和古書目録データベース」のデータ更新について

このたび「マイクロ資料・和古書目録データベース」のデータを更新しましたので、お知らせいたします。今回、六、一〇件の新規データの追加と既存データの修正を行いました。

今回、追加したマイクロ資料目録データの所蔵者は、三六所蔵者(文庫)で、所蔵者名、文庫番号は次のとおりです。なお、\*印は新規の所蔵者です。

- 文庫No. 所蔵者名
7 名古屋大学附属図書館(神宮皇学館文庫)
26 酒田市立光丘文庫
48 名古屋市蓬左文庫
49 岩国徴古館
55 陽明文庫
89 名古屋市鶴舞中央図書館
92 上田市立図書館(花月文庫)
93 上田市立図書館(花春文庫)
99 高知県立図書館(山内文庫)
214 西尾市岩瀬文庫
225 University of California, Berkeley
257 大和文華館
258 白杵市立白杵図書館
260 東京都立中央図書館(東京誌料)
278 大須文庫
305 愛知県立大学附属図書館
308 柿衛文庫
316 蘆庵文庫
318 夢望庵文庫
322 四国大学附属図書館(凌得文庫)
324 新潟大学附属図書館(佐野文庫)
326 石川県立図書館(李花亭文庫)
329 名古屋博物館
330 \*北方文化博物館
332 長野県短期大学付属図書館
335 \*ノートルダム清心女子大学附属図書館
336 富山県立図書館(中島文庫)
345 宮崎文庫記念館
347 糸魚川市歴史民俗資料館
350 \*郡山城史跡柳沢文庫保存会
351 \*京都府立総合資料館
352 \*静岡市立芹沢銈介美術館
353 \*浜松市立賀茂真淵記念館
355 \*諏訪市図書館
36 温泉寺

76 益田家

◆利用案内

利用資格
学術研究のために当館の資料を必要とする人
利用手続
初めて利用される方は登録が必要

要です。身分証明書を持参のうえ、カウンターで登録申請を行ってください。「資料利用カード」を発行します。

閲覧時間

九時〜十七時
文庫複写受付時間
九時半〜十五時半

◆臨時休室について

年末年始の休室日は、十二月二十七日から一月五日までとなっておりますが、今年度は十二月二十七日が土曜日に当たるとため十二月二十六日(金)を臨時休室とさせていただきます。お間違いないよう、よろしく願いたします。
なお、年始は一月六日(火)より通常どおり閲覧業務を開始します。

利用に関する問い合わせは情報サービス係にお願いします。

電話〇三三三七八五七一一
内線四五八

開室及び休室日一覽 (15.10.1~16.3.31)

Table with columns for dates and days of the week, indicating opening and closing times. Includes a legend for '印は休室日' and '複写受付時間'.

## 平成15年度 秋・冬季学会

①事務局 ②開催日 ③会場

(プログラム等詳細は当館ホームページ<http://www.nijlac.jp/events/gakkai-top.html>参照)

- 歌舞伎学会 ①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内 03-3203-4141内線71-5936(月曜午後のみ)  
②12月13・14日 ③南山大学
- 訓点語学会 ①〒155-0032 世田谷区代沢1-20-10 fax 03-3487-4891 ②11月14日 ③長野県松本勤労者福祉センター
- 国語学会 ①〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内 03-5841-3813 事務取扱  
〒113-0033 文京区本郷1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②11月15・16日 ③信州大学
- 上代文学会 ①〒142-8602 品川区大崎4-2-16 立正大学文学部906 (近藤)研究室内 03-5487-3286  
②10月18・19日 ③東京大学本郷キャンパス・専修大学神田校舎
- 昭和文学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内 03-3295-1331 ②11月15日 ③東京学芸大学
- 全国大学国語教育学会 ①〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101 鳥取大学教育地域科学部内 0857-31-5083  
②10月11・12日 ③沖縄県女性総合センター「ているる」・沖縄県自治研修所
- 全国大学国語国文学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町1-3-1 (株)おうふう気付 03-3294-0857  
②12月6～8日 ③大阪大学
- 中古文学会 ①〒191-8510 日野市大坂上4-1-1 実践女子大学文学部横井研究室内 042-585-8835 fax042-585-8847  
②10月11～13日 ③同志社大学
- 中世文学会 ①〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学文学部日本文学科佐伯真一研究室内 03-3409-7731  
②10月25～27日 ③同志社大学
- 日本演劇学会 ①〒560-8532 豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室内 06-6850-6111  
②12月6・7日 ③成城大学
- 日本音声学会 ①〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター 03-5814-5801  
②9月27・28日 ③関西大学
- 日本歌謡学会 ①〒340-0042 草加市学園町1-1 獨協大学外国語学部言語文化学科 飯島一彦研究室内 048-943-1039 ②10月18・19日 ③高岡万葉歴史館
- 日本近世文学会 ①〒102-8357 千代田区三番町12 大妻女子大学文学部江本裕研究室内 03-5275-6028  
②11月22～24日 ③金沢大学
- 日本近代文学会 ①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部東郷克美研究室内 事務取扱 〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 学会センターC21 日本学会事務センター内 03-5814-5810  
②10月25・26日 ③金沢大学
- 日本語学会 ①〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 075-415-3661 ②11月22日・23日 ③大阪市立大学
- 日本語教育学会 ①〒101-0065 千代田区西神田2-4-1 東方学会新館 03-3262-4291 ②10月11・12日 ③大阪大学
- 日本児童文学学会 ①〒484-8503 愛知県犬山市字内久保61-1 名古屋経済大学短期大学部 川勝研究室内 0568-67-0616 内線1307 fax0568-68-3173 ②10月25・26日 ③大阪国際児童文学館
- 日本社会文学会 ①〒840-8502 佐賀市本庄1 佐賀大学文化教育学部日本・アジア文化講座 0952-28-8221  
②9月10・11日 ③琉球新報ホール
- 日本文学協会 ①〒170-0005 豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②11月8・9日 ③東京都立大学
- 日本文学風土学会 ①〒277-8585 東葛飾郡沼南町大井2590 二松学舎大学文学部 04-7191-8753 ②③未定
- 日本文体論学会 ①〒110-0004 台東区下谷1-5-34 三修社内 03-3842-1711 ②11月8・9日 ③大阪学院大学
- 日本方言研究会 ①連絡先1 〒980-8576 仙台市青葉区川内 東北大学大学院文学研究科国語学研究室気付 022-217-5987 連絡先2 〒115-8620 北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付 03-5993-7630  
②11月14日 ③信州大学
- 俳文学会 ①〒171-8501 豊島区西池袋3-34-1 立教大学文学部日本文学科加藤定彦研究室内 03-3985-3558  
②10月18～20日 ③佐渡島総合開発センター
- 萬葉学会 ①〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語 国文学研究室内 06-6605-2413、2414  
②10月11・12日 ③神戸松蔭女子学院大学
- 紫式部学会 ①〒230-0063 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学文学部日本文学科研究室内 045-581-1001(代)  
②12月6日 ③東京大学本郷キャンパス
- 和歌文学会 ①〒162-8644 新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部兼築研究室内 03-5286-3708  
②10月25～27日 ③香川大学
- 和漢比較文学会 ①〒102-8160 千代田区富士見2-17-1 法政大学文学部天野紀代子研究室内 03-3264-9479  
②9月20・21日 ③法政大学